

日本共産党

市原市議団

ニュース



市原市議会議員
駒形 やす子



市原市議会議員
福田まさひこ



市議団 HP

市原市議会第1回定例会が2/16から3/24の間で開催されており、今議会最大の焦点は「ごみ処理手数料の有料化」議案への対応です。

1. ごみ処理手数料の有料化（ごみ袋に処理料金を上乘せ）とは

市原市はごみステーションに排出時に使用されてるごみ袋は、指定ごみ袋制を導入しているものの、袋製造コストのみの価格であり、ごみ処理手数料は含まれておらず、2027年4月より有料化するとしています。現行1リットルあたりの袋の値段を4倍化し、市の歳入見込みとして2027年度は年間6億4千万円としています。

現状	0.25 円/1 ㍓ = 45 ㍓袋約 10 円
有料化	1 円/1 ㍓ = 45 ㍓袋 45 円（10、20、30 ㍓袋も販売予定）

2. 有料化する理由は？（市の考え）

ごみ処理手数料を徴収（ごみ袋有料化）することで、

- ① ごみの発生や排出の抑制、分別の徹底といった市民の行動変容につなげ、更なるごみの減量化・再資源化の推進。
- ② ごみの出す量に応じた負担とすることで、費用負担の公平化

3. どこが問題か？（→私たちの考え）

- ① 市原市の「条例」では家庭ごみの処理は、「市がしなければならない」とあります。市の責任、税金で処理すべきところを、新たに市民に負担を求めることとなります。

→物価高騰から市民の暮らしを守るべきです。有料化は反対。

- ② 新しいごみ焼却場建設、運営管理費に多額の歳出予算（25年間で総額850億円）を計画しています。その関連性は、

→2032年度に市債残高が過去最大の1000億円を超えます。

実行計画にある各種事業規模の見直しを市に要望しています。